

当別花卉生産組合

(チューリップ部会)

部会長 岩崎 義彦さん

よしひこ



生産者同士で圃場(畑)を視察し、情報交換を行います。



春を感じるチューリップ
(写真上：ピンクダイヤモンド)
(写真右：ゆみこ)



品質に自信と誇り

当別町の基幹産業は「農業」です。「花卉」の生産も盛んで、その生産量は道内でもトップクラス!! 春の訪れが待ち遠しいなか、2月中旬からはチューリップの出荷が始まっています。今回は、当別花卉生産組合チューリップ部会長の岩崎義彦さんにお話を伺いました。

花のまち 当別というフレーズを聞いたことがあると思いますが、1年間で最初に出荷が始まるのがチューリップです。当別町では現在、8軒の生産者が多種多様な品種を生産しており、平成25年の生産量は約26万本、道内で生産されているチューリップは、ほぼ当別産です。作業は雪が降り始める12月から球根の植え付けが始まり、出荷が始まるまでは、毎日、ビニールハウスの室温管理に気を使います。基本的に室温は15℃くらいが適温なのですが、天気の良い日は、室温が一気に上昇してしまい、苗の成長に悪影響

が出てしまいます。換気のタイミングも難しいので、細心の注意をはらっています。また、人間と同様、病気にもなりますので、葉の状態を常に確認しています。

良い チューリップを育てる秘訣は、生産者同士の意思疎通です。例えば、1人が素晴らしい商品を作ってもダメなんです。チューリップ部会の全生産者が同じ品質で出荷するため、お互いの圃場(畑)を視察したり、アイデアを出し合ったり、情報交換を常に行っています。「やっぱり当別のチューリップは良いね。」と言っていただけの日々、努力ですね。「花の当別」のブランドを守り続けるため、これまで花卉生産に携わってきた先輩方から受け継いだ知識と技を絶やすことなく、更に良い花を出荷できるよう頑張っていきたいと思っています。私自身、チューリップの生産に約24年ほど携わっていますが、いつも試行錯誤の連続です。やはり、仲間や農協の方にも助け

られ、^{こんにち}今日があると思います。

市場 や関係者の間では有名な花卉産地ですが、一般の方の認知度はまだ低いのが現状です。もっと「花のまち当別」をPRしようと、近年は札幌市の地下歩行空間でPR販売もこなっており、非常に好評を得ています。直接、消費者からの生の声意見などを聞くことができるので非常に参考になります(今後の生産意欲の向上にもつながります)。

お花屋さんで気軽に購入していた花ですが、その舞台裏では、生産者の皆さんの苦勞と努力があることを忘れてはならないと改めて感じました。

【展示販売】

J A 北石狩本所(金融店舗)
3月6日(木)展示、7日(金)販売
札幌地下歩行空間

4月3日(木)、4日(金)

問合せ先

J A 北石狩本所 ☎ 0133-23-2530

(2月12日取材)